



1. 田畑精一 『おいしいれのぼうけん』(童心社)より 1974年



2. 田畑精一 『おいしいれのぼうけん』(童心社)より 1974年

没後1年

田畑精一

『おいしいれのぼうけん』展

2021年3月16日(火)～6月13日(日)

展示室2

主催：ちひろ美術館 協賛：株式会社ジャクエツ

協力：童心社、白梅学園大学・白梅学園短期大学 子ども学研究所 古田足日研究プロジェクトチーム

1974年に刊行された『おいしいれのぼうけん』は子どもたちの絶大な人気を集め、232万部を超すミリオンセラーとなっています。怖くても子どもだけで力を合わせて立ち向かう姿に、これまでどれほど多くの子どもたちが胸おどらせ、勇気をもらったことでしょう。

本展では、昨年6月7日に89歳で亡くなった絵本画家・田畑精一の画業を偲び、『おいしいれのぼうけん』の原画を展示するとともに、子どもと正面から向き合い、子どもの心に届く絵本をと、作家と画家と編集者が三位一体となって取り組んだ絵本づくりを紹介します。

あわせて、戦争体験を経て、ゆるぎない平和への信念を抱くようになった田畑の人物像を、「日・中・韓 平和絵本」シリーズの1冊として制作された自伝的絵本『さくら』を通して紹介します。

田畑精一 たばたせいいち 1931～2020

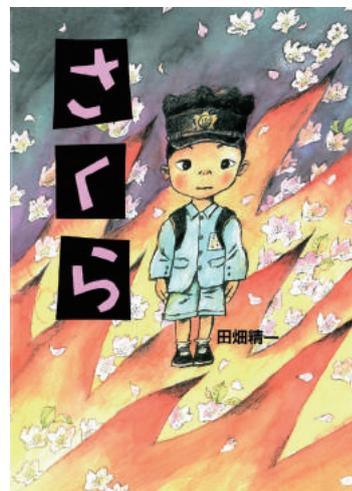


1931年大阪市生まれ。京都大学理学部中退後、本格的に人形劇にうちこむ。人形劇団ブーク・劇団人形座などで活動の後、古田足日と出会い、子どもの本の仕事をはじめ。主な作品に『おいしいれのぼうけん』、『ダンブえんちょうやっつけた』、『ゆうちゃんのゆうは?』『ひ・み・つ』(いずれも童心社)、『さっちゃんのまほうのて』、『ピカピカ』(いずれも偕成社)などロングセラー多数。「日・中・韓 平和絵本」シリーズの呼びかけ人の一人であり、自身は『さくら』を手がけた。紙芝居も数多く、『おとうさん』で高橋五山賞画家賞受賞。2020年6月7日没。享年89。

『さっちゃんのまほうのて』、『ピカピカ』(いずれも偕成社)などロングセラー多数。「日・中・韓 平和絵本」シリーズの呼びかけ人の一人であり、自身は『さくら』を手がけた。紙芝居も数多く、『おとうさん』で高橋五山賞画家賞受賞。2020年6月7日没。享年89。



『おいしいれのぼうけん』(童心社) 1974年



『さくら』(童心社) 2013年



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団
ちひろ美術館・東京

chihiro.jp

TEL.03-3995-0772(業務用)

お問い合わせは、広報担当：入口・北村まで

232万部のミリオンセラー 『おしおれのぼうけん』

古田足日・田畑精一 作、童心社、1974年
(ちひろ美術館寄託)



3. 田畑精一 『おしおれのぼうけん』(童心社)より 1974年

さくら保育園には怖いものがふたつあります。ひとつはおしおれで、もうひとつはねずみばあさん。先生に叱られておしおれに入れられたさとしとあきは、地下の世界に住む恐ろしいねずみばあさんと対決することに.....。

『おしおれのぼうけん』には、「さく／ふるたたるひ たばたせいいち」と、作家名と画家名がいっしょに表記されています。文章に絵を添えるのではなく、作家と画家と編集者が三位一体となって、80ページに及ぶこの絵本はつくられました。田畑は保育園の現場をリアルに描くために、保育園で子どもたちが使うような画用紙に、鉛筆で絵を描いています。

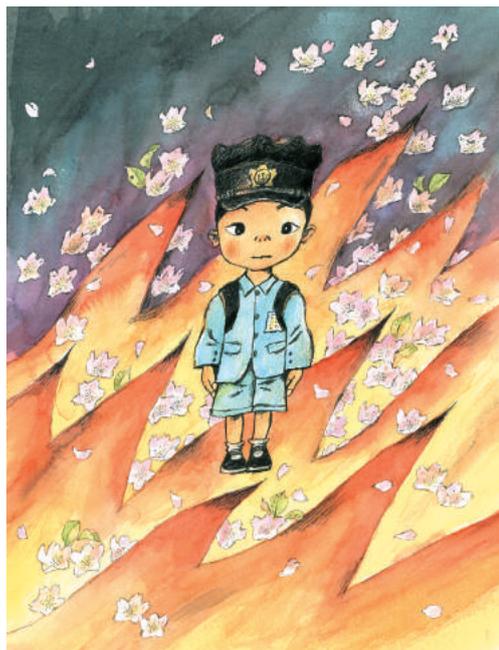
世代を超えて読み継がれるロングセラーの絵本づくりを探ります。



4. 田畑精一 『おしおれのぼうけん』(童心社)より 1974年

日・中・韓 平和絵本 『さくら』

<日・中・韓 平和絵本シリーズ>
田畑精一 作、童心社、2013年



5. 田畑精一 『さくら』(童心社)より 2013年

「日・中・韓 平和絵本」は、日本・中国・韓国の平和を願う絵本作家が国を超えて交流を重ね、歴史と向き合い、平和と戦争について語り合っつけられた絵本シリーズです。田畑精一の自伝的絵本でもある『さくら』は、その1冊として制作されました。

日中戦争が始まった1931年に生まれた「ぼく」は、聖戦を勝ち抜くために、桜の花のように散れ、散れ.....と教えられ、軍国少年として育ちました。終戦の年に父を亡くし、戦後、貧しさに苦しむなかで、戦争によって世界中の大勢の人がいのちを失い、親しい人を失った人達の悲しみが世界をおおっていることに気づきます。さくらの老木がぼくに語りかける「戦争だけはぜったいにいかん!」ということばは、田畑精一自身が生涯抱き続けた願いです。



6. 田畑精一 『さくら』(童心社)より 2013年



ちひろ・子どもは未来

2021年3月16日(火)～6月13日(日)

展示室1・3・4

主催：ちひろ美術館 協賛：株式会社ジャクエツ



7. ガーベラを持つ少女 1970年頃

画家いわさきちひろは、共感をもって身近な子どもを見つめ、未来を生きていく子どもたちに大きな可能性を感じ、平和な日常のなかで輝く子どもの姿を描き続けました。

「世界中のこども みんなに 平和としあわせを」ちひろが残したこのことばは、彼女が描いた絵とともに、さまざまな困難に直面する現代に生きる私たちに切実に響きます。

本展ではちひろの絵とことばを通して、時代が変わっても変わらない大切なものや本当の豊かさについて見つめなおします。

花に重ねて

子どものほかに、ちひろが生涯描き続けたテーマのひとつが花です。ちひろの暮らしのなかには常に花がありました。庭仕事を愛していたちひろは自らの手で数多くの植物を育て、束の間の時間を懸命に咲く花を慈しんでいました。ちひろは、花に重ねて、未来へ伸びていく子どもの姿を描き、その尊いのちや、豊かな感受性が平和な世界でこそ輝くことを伝えています。

私は私の絵本のなかで、いまの日本から失われたいろいろなやさしさや、美しさを描こうと思っています。それをこどもたちに送るのが私の生きがいです。

青年たちは若いだけに、もっと大きいいきがいをもてるはずだと思います。世の中がいくらみにくくても、それにうちかつ生きがいは、若もののなかにこそあると思います。

いわさきちひろ 1972年



8. 黄色いシクラメンと子ども 1969年



絵本『あかちゃんのくるひ』

—子どもの心—

お母さんが生まれたばかりの弟と一緒に家に帰って来る日の少女の心の動きを描いたこの絵本は、三人姉妹の長女だったちひろの思い出がもとになっています。ちひろ自身のなかにずっと息づいていた子どもの心がみずみずしく映し出されています。



9. あかちゃんのくるひ『あかちゃんのくるひ』(至光社)より 1969年

平和への願い

ちひろは、子どもがいる平和な情景を描く一方で、戦争のなかで生きることを余儀なくされた子どもたちを絵本のなかに描いています。1972年から翌年にかけて、ちひろは病をおして絵本『戦火のなかの子どもたち』に取り組みます。この絵本で、ちひろは、未来を生きることができなかった子どもたちに心を寄せ、戦争への怒りと悲しみを描きました。

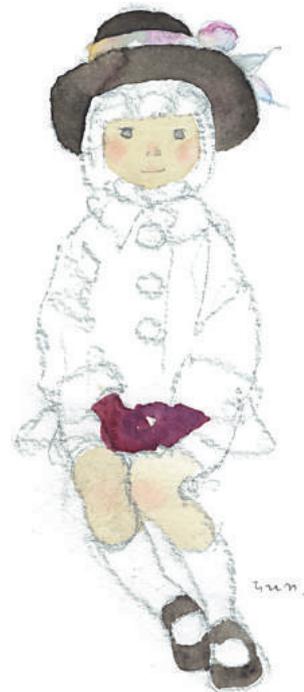


10. 戦火のなかの少女『戦火のなかの子どもたち』(岩崎書店)より 1972年

ピエゾグラフで見る『窓ぎわのトットちゃん』

『窓ぎわのトットちゃん』(講談社)には、戦時中もユニークな教育方針を貫いたトモエ学園での小学校生活を中心に、著者・黒柳徹子(ちひろ美術館館長)の子ども時代がいきいきとつづられています。国内で累計800万部を超えるベストセラーとなった本書は、現在、世界35ヵ国以上で出版され、世代と国境を超えてちひろの絵とともに世界中の人々から愛されています。

安曇野ちひろ公園・トットちゃん広場の開園5周年、そして『窓ぎわのトットちゃん』の刊行40周年を迎える今年、あらゆる子どもたちが輝くトットちゃんの物語の世界を、ピエゾグラフによるちひろ作品でご紹介します。



11. こげ茶色の帽子の少女 1970年代前半



2021年3月16日(火)～6月13日(日) 会期中のイベント

● 酒井京子講演会

「田畑精一さんとのお絵本づくり」(オンライン)

4/25(日)15:00～16:30

田畑精一展の開催を記念して、『おしいれのぼうけん』を編集した酒井京子さんによる講演会を行います。古田足日さん、田畑精一さんとの三位一体でのお絵本づくりや、田畑作品の魅力についてお話をうかがいます。※オンライン会議アプリのZoomを使用した講演会です。ご自宅などからご参加ください。

講師：酒井京子(童心社会長) 定員：70名

参加費：700円

申し込み：要事前予約(3月25日より受付開始)



酒井京子

1946年疎開先の千葉県で生まれる。1968年、株式会社童心社に入社。編集部配属される。以後、紙芝居と図書の編集に携わる。初めて担当した本は『宮沢賢治・花の童話集』(絵・いわさきちひろ)。『おしいれのぼうけん』(古田足日・田畑精一・作)、『14ひきのシリーズ』(いわむらかずお・作)、『びゅびゅんごまがまわったら』(宮川ひろ・作 林明子・絵)、『にちよういち』(西村繁男・作)、『えのすきなねこさん』(西巻茅子・作)などの絵本を手がける。取締役編集長をへて、1998年代表取締役社長に就任、現在は会長。また、紙芝居の普及にも力を注ぎ、「紙芝居文化の会」の代表も務めている。

● 田畑精一展 関連展示

没後1年 田畑精一『おしいれのぼうけん』展(仮)

2021年9月11日(土)～11月30日(火)

会場：安曇野ちひろ美術館



田畑精一 『さくら』(童心社)より 2013年

● ピエゾグラフによる わたしの好きなちひろ展
メッセージ大募集

2021年秋、ちひろ美術館(東京・安曇野)では、みなさんが選んだちひろの絵とともに、寄せられたメッセージを紹介する参加型の展覧会を開催します。絵にまつわる思い出やその絵の魅力などを添えて、あなたの好きなちひろの絵をリクエストしてください。詳細は特設サイトをご覧ください。

myfavorite.chihiro.jp

わたしの好きなちひろ展 で検索

ピエゾグラフとは—
ピエゾグラフとは、耐光性のある微小インクドットによる精巧な画像表現で、ちひろの繊細な水彩表現を高度に再現しています。光に強いピエゾグラフは、ちひろの作品の公開の可能性を、大きく広げました。17年にわたるアーカイブの成果をご覧ください。



いわさきちひろ
ピンクのうさぎとあかちゃん
1971年

※お客さまに安全にお過ごしいただけるよう、新型コロナウイルス感染拡大防止のため十分な措置を講じたうえで、開館しております。当面の間、開館時間を短縮しています。

※開館情報、会期、展示名などは予告なく変更する可能性があります。

● 展覧会名…没後1年 田畑精一『おしいれのぼうけん』展
ちひろ・子どもは未来

● 展示会期…2021年3月16日(火)～6月13日(日)

● 開館時間…10:00～16:00(入館は閉館の30分前まで)

● 休館日…月曜日(祝休日は開館、翌平日休館)

● 入館料…大人1000円/高校生以下無料

団体(有料入館者10名以上)、65歳以上の方、学生証をご提示の方は800円/障害者手帳ご提示の方、介添えの方1名までは無料/リピート割引500円/年間パスポート3000円

● 交通…◎西武新宿線上井草駅下車徒歩7分

◎JR中央線荻窪駅より西武バス石神井公園駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎西武池袋線石神井公園駅より西武バス荻窪駅行き(荻14)上井草駅入口下車徒歩5分

◎駐車場あり(乗用車3台・身障者用1台)



公益財団法人いわさきちひろ記念事業団

ちひろ美術館・東京

〒177-0042 東京都練馬区下石神井4-7-2

chihiro.jp



お問い合わせは、広報担当：入口・北村まで Email: publicity@chihiro.or.jp

テレホンガイド 03-3995-3001 TEL. 03-3995-0772(業務用) FAX 03-3995-0680